

文学座3月アトリエの会  
「Fefu and Her Friends」関連企画

## シンポジウム

# フォルネスと 国際演劇プロジェクト

2026年3月20日(金) 上演終了後～  
(およそ16:00頃)

会場

文学座アトリエ (東京都新宿区信濃町10)

料金

1000円/U30(30歳以下)500円 要予約

アメリカ現代演劇を代表する劇作家マリア・アイリーン・フォルネス。世界で最も革新的な劇作家の一人でありながら、その作品がなぜ日本でほとんど上演されてこなかったのか。その背景を手がかりに、本シンポジウムでは、フォルネスの研究者であるグwendolyn・アルカー氏(ニューヨーク大学)と戸谷陽子氏(東京国際大学)をお招きし、フォルネスが残した演劇文化への多大な貢献、そして教育者としての影響力を多角的に探ります。さらに、今作『Fefu and Her Friends』の立ち上げプロセスを振り返りながら、今回の演出家であるエリーズ・トロンがこれまで取り組んできた国際プロジェクト、そして文化的背景の異なる国で演劇を創造するということ——その困難と可能性を、現場の視点から共有します。アメリカ演劇の現在地、フォルネス作品の魅力、国際共同制作のリアル、そして新たな演劇の未来を考える貴重な機会です。ぜひご参加ください。



### エリーズ・トロン

Elise Thron  
(演出家/劇作家/翻訳家)

長年にわたり芸術による国際文化交流に尽力。ロシア、キューバ、日本などで、数多くのライブパフォーマンスを創作。異なる人々を結びつけ、対話を喚起するダイナミックなツールとして演劇をとらえている。文学を若者へ届ける劇団「Literature to Life」の芸術監督。



### グwendolyn・アルカー

Gwendolyn Alker  
(Fornes Institute/ニューヨーク大学准教授)

世界でも有数の演劇教育プログラムを持つニューヨーク大学演劇学科にて准教授として教鞭をとる。二十年以上にわたりマリア・アイリーン・フォルネスの生涯と作品について提唱、教育、研究を行っている。現在は「Fornes Institute」の共同代表を務め、この重要な劇作家に関する初の伝記を執筆中である。



### 戸谷陽子

東京国際大学教授/お茶の水女子大学名誉教授

専門分野はアメリカ文学・演劇(劇作家マリア・アイリーン・フォルネス、サム・シェパード等)、パフォーマンス研究。コロンビア大学大学院在学中に、ニューヨークの前衛劇作家/演出家リー・ブルーアーのアシスタントとして実践活動に従事した経験をもつ。お茶の水女子大学ジェンダー研究所前所長。



鵜山 仁



添田 園子



通訳/原啓太

申込

文学座 03-3351-7265

(土日祝除く11:00-18:00)



こちらのフォームからも  
お申込みいただけます。